

2アマ講習会制度

JJ1SXA/池

無線従事者資格の免許は、無線従事者国家試験に合格した場合の他、養成課程を修了した場合にも受けることができることはご存知の通りです。

最初は、電話級の講習会のみでしたが、電話級が第4級に、電信級が第3級となって、共に講習会での資格取得ができるようになり、第3級が旧電信級よりも格上げされた(出力が、50W出せるようになった)ため、我も我もと、養成課程による第3級の資格取得者が急増しました。

1アマの試験も、和文CWが外され、60文字/分の欧文受信のみとなり、次は25文字/分の欧文受信のみ、更にCWの実技試験は完全に消滅しました。

2アマ試験も、25文字/分の欧文受信のみ、CWの実技試験無しと変遷してきたわけですが、いよいよ、この2アマも講習会で資格取得可能のようです、総務省のPapukoも終わり、法律改正を待つ状態です。

第4級、第3級、第2級と、国家試験を受ける事無く講習会の受講で資格獲得ができるようになるわけで、残る1アマも、将来は講習会でと言うことになるのでしょうか？

プロの資格の一部も既に講習会受講でOKになっている現状では、そういう流れは当然なのでしょう、一寸昔は、2アマ、1アマは上級資格と言われましたが、もう初級も上級も無くなったということです。

国試受験も、CWの実技試験は無くなり、学科試験も多肢選択等に変わり、どんどんハードルは低くなったことは事実ですが、国試受験より講習会受講の方が、もっとハードルは低いと思われまます。

電話級の講習会がスタートしたのは、CB等の違法無線局を少なくし、アマチュア人口を増やすと言う大目的があり、これは当初の目的を達成したものだと思いますが、3アマの講習会制度には、目的は何なのか、50W局を増やし、50W機の販売増を狙うJAIAの意向がからむのか？との疑問があったところですが、今回の2アマ講習会制度も同様の理由がメインなら、何をか言わんやだ。

しかし、そのようにハードルを下げてでも若者の無線人口の増加は望めず、無線機の需要増もたかが知れているのでは無いかと思う。

永年、電話級・ジャパンテンワットで、ハイパワー運用をしていた、努力をさぼって、上級試験に臨まず、ますます受験はきつくなった、老？4アマハムが、晴れて、ハイパワーを出せるようにする制度か？

欧文・和文CWの送受信と共に、全筆記の学科試験をクリアした1アマから、特1アマの名称を与えるか、今の制度での1アマは、準1アマという資格を増やして区別しろ(2アマについても同様、特2アマの名称か準2アマで対応しろ)、などとの意見も出ているが、まあ無理な話、だが、何をやっても無線人口減少の動きは止まらない。